

20001

当院における心臓カテーテル検査室の放射線防護具の管理について

<sup>1</sup>康仁会 西の京病院

蓬莱 忠志<sup>1</sup>、原田 修一<sup>1</sup>、野口 幸<sup>1</sup>、清水 眞澄<sup>1</sup>、齊藤 精久<sup>1</sup>

【目的】 心臓カテーテル検査室の放射線防護具は日本放射線技術学会放射線防護分科会における診断用 X 線防護衣に関する指針を基にして、点検管理を行っている。当院での心カテ室における放射線防護具の管理状況を報告する。【方法】 放射線防護具には管理番号を付け、各々に点検カルテを作成して形状、点検日、シェーマ等を記載した。原則6ヶ月毎に触知と X 線透視で点検管理を行い、異常時にはその都度補修を行って補修部位をシェーマに記録した。【結果】 防護衣13着の内、遮蔽シートのシワに沿った部分亀裂が5着、縫い目部分の亀裂が1着で、うち3着は看護師専用の防護衣であった。ネックガードなど他の防護具には異常は無かった。【考察】 購入後2年で看護師専用防護衣の部分亀裂が生じたのは体型の異なる看護師が常に着用する結果と思われる。亀裂の原因は遮蔽シートのシワであり、一旦亀裂が生じると亀裂部分は進行する。着用者の体型に合った防護衣の選択および使用後は専用ハンガーに掛ける事によりシワの発生は軽減する。点検は触知と X 線透視で遮蔽シートのシワ等の亀裂有無の確認が必要である。点検カルテを作成する事により購入日、点検日、補修部位および劣化の程度など保有放射線防護具の状況が把握出来、安全な品質管理に有効である。【結語】 心カテ検査室開設以来、定期的に放射線防護具の点検を行っているが、今回購入後2年で防護衣の部分亀裂を経験し早期に対処が出来た。放射線従事者の不必要な被ばくを防護する為にも放射線防護具の適切な管理は必要不可欠である。